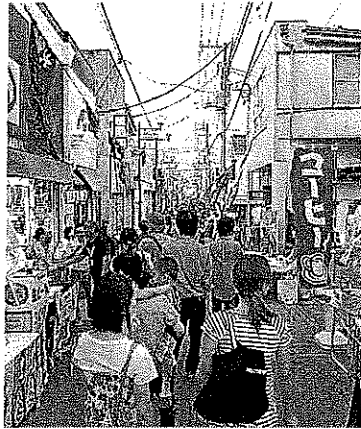


三浦半島の魅力アピール

横須賀市 ブロガー、ツアーに招待

三浦市 市街地の中心に案内所



三浦市は商店街への観光客の呼び込みにも力を入れている（昨年8月開催のイベントの様子）

新しい観光資源を発掘

三浦半島の自治体が観光振興をテコ入れしている。横須賀市はブログの人気執筆者に限定したツアーを2011年度中に開き、口コミ効果による集客力の向上を期待する。三浦市は4月から商店街を観光資源として生かす事業を加速する。三浦半島の観光客はここ数年で伸び悩んでいる。既存の観光資源をアピールすることで観光客を誘致し、市内の回遊性も高めていく狙いだ。

横須賀市はブログ執筆者（ブロガー）を15人程度集め1泊2日のツアーを開く予定。参加者には旅行関連のブログで1万件以上のアクセスがある人を想定しており、市が選定して無料で招待する。NHKドラマで人気を集めている戦艦「三笠」

（現在は記念艦）など定番の観光施設に頼るだけでなく、市がこれからPRしていきたい施設を中心に回ってもらう。

例えば、シラスがとれる佐島港の近くの飲食店でシラス料理を提供したり、横須賀美術館の飲食店に立ち寄って東京湾が一望できる同店の良さをPRすることを検討している。市の担当者は「1万部のパンフレットを作るよりも、1万人の閲覧者がいる1つのブログの方が口コミ効果も大きいのでは」と話している。

三浦市の観光振興の中心は商店街と城ヶ島。特に商店街に観光客を呼び込むため市内中心部のパズロタリーの前に観光案内所を4月にも開設する。軒先に大型スクリー

ンを設けて昭和のたたずまいを残している商店街のビラオを流し、来街者の関心を高める。

観光地図も早ければ4月に作製する。市内の朝市で買った魚をさばける飲食店の場所も案内することが特徴で、事業の委託を受けた会社は「朝市が終わったらすぐに帰るのではなく、昼過ぎまで滞在してもらえらることを

期待する」と話す。

市内では三崎港でとれた魚介類を販売する産直センター「うらり」に観光客が集中しており、分散化が課題となっている。より多くの観光資源を発掘することで市内の回遊性を高め、多くの滞在時間を確保する。

逗子市も逗子海水浴場が12年度に海開き100周年を迎えるのを前に、

同海水浴場の宣伝などに注力する方針だ。

三浦半島の観光客数は04年からの6年間、年間1400万人前後で推移。宿泊客数も同約100万人と伸び悩んでいる。厳しい財政状況にある自治体にとって、埋もれた観光資源に光りを当てて魅力を向上させることで観光客の増加につながる考えだ。